
タイトル未定?

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タイトル未定？

【Nコード】

N27970

【作者名】

ごほんライス

【あらすじ】

ショートショートです。原稿用紙一枚分。

勝山紀夫が駅を出たとき、誰かにつけられていることに気がついた。振り返ると、誰かがあわてて電柱に隠れるのだ。

勝山は少し気になったが急ぎの用事があったので構わず、進んでいった。誰かもあわてて追いかけた。

勝山には娘が二人いる。そのうちの一人、姉、京子の家に今向かっているのだ。

勝山は京子の家に着いた。二階建てのお洒落な木造建築である。

旦那さんは仕事、子供は学校で、今、家には京子しかない。

「お父さん。久しぶり」

「ああ」

京子に応接間に通された。麦茶を持ってくる京子。

そのあと、例の件について一時間ほど話し合った。京子と勝山の意見はなかなか合わなかった。世代の違いが影響しているのである。

結局勝山は後日改めて決めようということ、京子の家を出た。

電柱の陰にまたしても誰か。くそ。しつこい。

ただ、勝山は急いでいる。もう一つ要件があるのだ。

勝山はタクシーを拾い、「西山橋まで」と運ちゃんに言った。誰かもタクシーを拾い、勝山の乗ったタクシーを追いかけた。

西村橋に到着し、ある雑居ビルを目指す。その三階にある、とある事務所。

ドアを開けると、よく肥えた初老の男性が勝山を迎える。「おお。かっちゃん。よく来たね」

「どうも。玄さん。さっそく例の話しましょうか」

「ああ」

二人は事務所の奥にある畳の部屋に上がる。

テーブルの上に設計図を広げている話し合う。

議論は二時間に及んだ。

「かつちゃん。助かったよ。ありがとう」

「いえいえ。んじゃ」

勝山は外に出た。だいぶ暗い。最寄りの駅まで歩いていこうかな。いい運動になる。

と思つていたら、またしても、電柱の陰に誰か。

勝山はいいかげんに腹を立てて、用事も終わったことだし、その誰かの前までつかつかと歩いていき、止まった。その誰かはおろおろしている。

「いったいオレに何のようなんだ!」

「あのう、そのう、あの家とあのビルであなた、何の話してたんですか」

「そんなプライベートなこと何で見ず知らずのお前に話さなきゃならない。こいつ!」

勝山はかつとなつて拳を上げた。

「ひっ」

読者はボコボコにされた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2797o/>

タイトル未定?

2010年10月13日03時54分発行